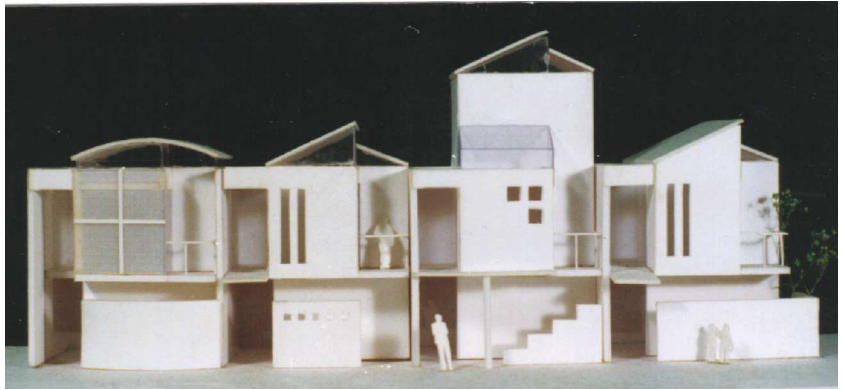


連担建築物設計制度モデルスタディ

Shinagawa Tokyo 2000

< 既成市街地低未利用地の有効利用促進 >

発注：住宅都市整備公団、日本建築センター



街並み型戸建住戸のスタディ



モデル地区の現況(1)



モデル地区の現況(2)



南側立面図



東側立面図

住宅都市基盤公団では、敷地共同化・強調タイプの建築諸制度を活用した、既成市街地低未利用地の有効利用促進に関する調査研究を進めている。

私達は、研究調査チームの一員として、平成10年改正により創設された連担建築物設計制度（建築基準法第86条2項）を活用したモデルスタディを行った。対象を住商の混在した木造密集市街地とし、敷地整序型土地区画整理事業と連担建築物設計制度をあわせて用いることによる、部分更新型の再開発の可能性を検討した。

住宅都市基盤公団 市街地整備課で作成した事業モデルに従い、フィジカルな面での検討を(主に模型を使用しながら)進めることにより、事業、市街地環境の両面から市街地再生に向けての新しい切り口を提示することができた。



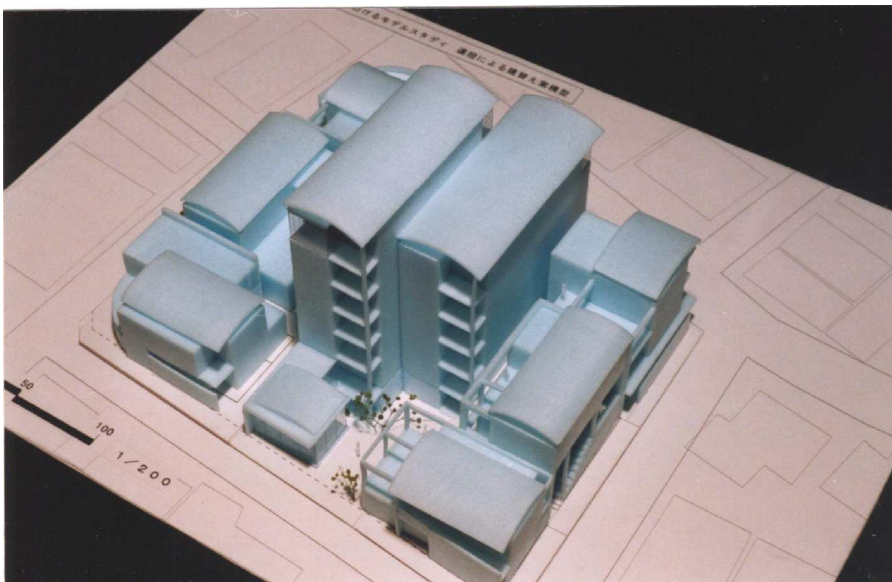
敷地共同化・強調タイプの建築制度を活用した既成市街地内低未利用地の有効利用促進に関する調査報告書

第1章 連担建築物設計制度の概要等

第2章 容積移転等に係る権利関係、価格評価等のあり方に関する検討

第3章 既成市街地、特に密集市街地における連担建築物設計制度の活用のあるり方に関する検討

1. 検討成果
2. 今後の課題
3. 連担建築物設計制度に関する建築諸制度



将来像のモデル

